

JA 自己改革 ニュース

JAひすいでは、毎月「JA自己改革ニュース」を発行し地域の皆さんにJA自己改革の内容・進捗をお知らせしています

JAの自己改革に期限はあるの？

政府が進める「農協改革」の推進期間に期限はありますが、私たちが取り組んでいる「JA自己改革」に期限はありません。

JAグループは、第27回JA全国大会実践期間中(2016~2018年度)、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする自己改革を通じた「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」の確立に取り組んでいます。そして、2019年4月からは、次の第28回全国大会の実践が始まるので、2019年3月がひとつの区切りとなります。

同時に、政府が進める農協改革集中推進期間も視野に入れる必要があります。政府は、農協改革の「期限」を2019年5月と区切っています。この期限までに、JAが自ら改革を進めることができるかが、政府の今後の農協改革への対応を左右します。2016年に改正された農協法では、准組合員の事業利用について5年後(2021年)に改めて検討する、と明記されています。

あたしたちJAひすいを含むJAグループは、こうしたスケジュールを念頭において、自己改革を一層スピードアップしていきます。

JAひすいの「食農教育活動」を紹介します！

平成28年、営農部に「農業支援室」を創設しました。これは、「JA自己改革工程表」「農家・担い手支援策」の確実な実践と管理を行うことが目的であり、主な取り組みのひとつ「食農教育活動」は、JA自己改革の基本目標である「地域の活性化への貢献」の重点施策に該当します。

JAひすいが取り組む食農教育活動は、子供たちから農業体験学習などを通じて「命の大切さ・食への関心」についての意識を高めてもらい、将来的に農業の大切さおよび地元農産物の良さを実感できる消費者・応援者になってもらうことを目標としています。



▲小学生の米づくり体験をサポート。地元農家の皆さんからも協力いただき、田植えから稲刈りまでを体験します



▲支店職員も積極的に食農教育活動に参加し、地域とのつながりを深めています

JAひすい

食農教育

ひすい食彩館で野菜苗を見学～糸魚川東小学校～

5月1日(月)、糸魚川東小学校2年生の皆さんが、栽培する野菜苗の下見を目的にひすい食彩館を訪れました。子店長から野菜の特徴について説明を受け、店の前に並んでいる苗の見学をする子どもたち。「ヤーコンってどんな野菜ですか?」「カボチャの苗はどこにありますか?」と質問しながら、苗の様子や違いを観察していました。

その後、食彩館の店内を見学。見つけた野菜や果物、山菜の名前を一生涯メモに書き留めました。

野菜って、色々な特徴があるんだなあ

店長の子田です
一緒に野菜の勉強しよう!

ピーマンとトマトについて話を聞きたいな!

こんなにたくさん野菜の苗が売ってるんだあ!

イチゴ発見! うん!

どう? いっぱい見つかった?

平成29年度は56件の食農教育活動を実施し、年間を通じた活動(例:田植え→生育調査→稲作指導会→稲刈り→郷土料理・米粉パン作りなど)の増加を目標に取り組みました。また、活動内容や様子を「食農教育通信」として作成し、参加した全員分をカラー印刷して、子どもたちを通じて保護者へ活動を伝えています。

▲保護者の皆さんにお配りしている食農教育通信